

令和4年度 実施事業の概要

施設名: 国立妙高青少年自然の家														
教育事業名: 「MYOKO法人ボランティア養成キャンプ兼自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修単位互換事業」														
期間: 令和4年5月21日(土)～5月22日(日) (1泊2日)														
対象及び参加人数: 自然体験活動や青少年教育に興味関心をもつ大学生・社会人 74名														
目的: 講義や演習、野外体験活動等の研修をととして、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。														
事業概要: 上記目的のため、事業を実施した。74名(大学生72名、専門学校生1名、社会人1名)の参加者に加え、10名の法人ボランティアが運営スタッフとして参加した。 各講習及び講師は、以下のとおりである。 <table border="0"><tr><td><input type="checkbox"/> 青少年教育(1.5h)</td><td>【講師:国立妙高青少年自然の家 所長】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 安全管理(3h)</td><td>【講師:頸南消防署 職員】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> ボランティア活動の技術(4h)</td><td>【講師:国立妙高青少年自然の家 職員】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 青少年教育施設の現状と運営(1h)</td><td>【講師:国立妙高青少年自然の家 次長】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> ボランティア活動の意義(1.5h)</td><td>【講師:新潟青陵大学 准教授】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 青少年教育施設におけるボランティア活動①(1h)</td><td>【先輩ボランティア:2名】</td></tr><tr><td><input type="checkbox"/> 青少年教育施設におけるボランティア活動②(1h)</td><td>【講師:国立妙高青少年自然の家 職員】</td></tr></table>	<input type="checkbox"/> 青少年教育(1.5h)	【講師:国立妙高青少年自然の家 所長】	<input type="checkbox"/> 安全管理(3h)	【講師:頸南消防署 職員】	<input type="checkbox"/> ボランティア活動の技術(4h)	【講師:国立妙高青少年自然の家 職員】	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設の現状と運営(1h)	【講師:国立妙高青少年自然の家 次長】	<input type="checkbox"/> ボランティア活動の意義(1.5h)	【講師:新潟青陵大学 准教授】	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設におけるボランティア活動①(1h)	【先輩ボランティア:2名】	<input type="checkbox"/> 青少年教育施設におけるボランティア活動②(1h)	【講師:国立妙高青少年自然の家 職員】
<input type="checkbox"/> 青少年教育(1.5h)	【講師:国立妙高青少年自然の家 所長】													
<input type="checkbox"/> 安全管理(3h)	【講師:頸南消防署 職員】													
<input type="checkbox"/> ボランティア活動の技術(4h)	【講師:国立妙高青少年自然の家 職員】													
<input type="checkbox"/> 青少年教育施設の現状と運営(1h)	【講師:国立妙高青少年自然の家 次長】													
<input type="checkbox"/> ボランティア活動の意義(1.5h)	【講師:新潟青陵大学 准教授】													
<input type="checkbox"/> 青少年教育施設におけるボランティア活動①(1h)	【先輩ボランティア:2名】													
<input type="checkbox"/> 青少年教育施設におけるボランティア活動②(1h)	【講師:国立妙高青少年自然の家 職員】													
成果: <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染拡大予防に留意した環境整備に努め、ボランティア養成共通カリキュラムに基づき実施した。今年度は、上越教育大学、新潟青陵大学、信州大学を中心に大勢の学生から参加があった。<input type="checkbox"/> 活動経験豊富な法人ボランティアが、運営スタッフの一員として参加した。平成28年度から実施しているボランティア育成の「MYOKOモデル」に基づき、アイスブレイクや野外炊事などの各活動において先輩ボランティアがロールモデルとして活動する姿を見せることで、ボランティアの魅力を伝えることができた。<input type="checkbox"/> ボランティア活動の技術では、野外炊事「カレーライスづくり」を行った。薪の割り方や組み方、火加減などについて、グループの仲を深めながら知識や技術を学ぶ姿が多く見られた。野外炊事後の振り返りでは、「危険予知トレーニング」を行った。野外炊事の一場面を表した資料から危険を予知し、どのような対策をとればリスクを抑えることができるか考えることができた。<input type="checkbox"/> 青少年施設におけるボランティア活動①では、発表者が自身の体験を振り返って、ボランティア活動の魅力を話した。参加者のアンケートからは、「ボランティア活動が楽しみになった」「早く活動してみたい」「わくわくした」などの意見があり、参加者のボランティア活動に対する意欲を高めることができた。<input type="checkbox"/> 自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修の参加につなげるため、MYOKO法人ボランティア養成キャンプとの受講カリキュラムの互換性や資格取得のメリットなどを参加者に呼び掛けることができた。														
課題: 今年度は、大勢の新規法人ボランティア登録者を得ることができた。法人ボランティアとして、継続的に活動できるようにするためにも、事業案内を計画的に進めていく必要がある。さらに、自主企画事業の企画運営を組織することで、法人ボランティアがボランティアに対してやりがいを感じたり、自己の成長を実感したりできるようにしていきたい。														